

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の核持ち込みに関する 「密約」に係る調査の関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): 核持ち込み問題, 東郷次官, ホドソン米国大使 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43861



49

生野長丸 参事長

四月十日 藤山左衛門 参事長 会合記録



大臣

水谷

三浦

長

三浦

日清 昭和三十二年四月十日 午後四時一十分 於参事長室 二二三号にて
本席 藤山 水谷 参事長 水保
三浦 参事長 三浦

大臣 土谷 参事長 三浦 参事長 其後に藤山 参事長 園後 参事長 土谷 参事長

参事長 参事長 初等 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

外務省



はるかにきく、公使がきく。

大臣 一昨の参事長 会合にて河野 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長 参事長

外務省

一 指定十日以上の者を含むものは、一月を限り、遅延を要するものとし、その限り
 外、指定十日以下の者は、遅延を要しないものとす。
 十日以上の者は、本通知の期限より前見を聴き、外務省に意見を書きこむ
 ことができるが、本通知の期限を過ぎても、遅延を要しない。
 十日以上の者は、河川法に何の問題かあることは、河川法に違反するものとして、早急
 に対処する必要があるから、現行法に何の修正もなし、今更なことに、その旨の令
 旨は、遅延を要しない。

外務省

七使 指定は、現行法に定められたものである。

七五 指定は、現行法に定められたものである。河川法は、現行法に定められたものである。

七六 指定は、現行法に定められたものである。河川法は、現行法に定められたものである。

七七 指定は、現行法に定められたものである。河川法は、現行法に定められたものである。

七八 指定は、現行法に定められたものである。河川法は、現行法に定められたものである。

七九 指定は、現行法に定められたものである。河川法は、現行法に定められたものである。

八〇 指定は、現行法に定められたものである。河川法は、現行法に定められたものである。

八〇 指定は、現行法に定められたものである。河川法は、現行法に定められたものである。

外務省

使

唯今の其は、自らは新見として書かぬが、よいとあふか、之は日本の河
~~とある。自らは~~ 心配する事と云はれ、書かざるといふ事、オランダの
~~はく米園は~~ 以来の豫知と云ふこと、自らは保料、社村、船、
~~自らは新見~~ 云々

七使

右は私にあきうきと、持てあつて、
~~七使~~

古使

十四の番、カ、
~~古使~~

外務省は、
~~外務省~~

外務省

手書は、
~~手書~~

すんば、
~~すんば~~

若し左様な事、
~~若し~~

一、
~~一~~

二、
~~二~~

三、
~~三~~

四、
~~四~~

外務省

再び行ふべきこと、人は己の手足に意見を取りかいた、いと多親子

いれは事案の解決すべき物は *analogue* あり、今後如何に道あるべきか、新

影い言、事案を待たぬ、

政府の閣議より、堂に要職にあり、一人の意見が、事案を合へ、事案

より存せしむる、*serious think* の事、堂内には或は強硬及外務大臣の、事案に

か上の事案を人に、事案 ~~事案~~ にならざる、向うあり、意見を承り、事案

会議が行、政府を其の意思に済、政府が、その事案を、事案を、事案に

外務省

又

由事は、なる、事案を、延ばす、事案、延ばす、事案、延ばす、事案、延ばす

た、事案、外務省は、如何に、事案に、事案に、事案に、事案に、事案に、事案に

事案、事案、事案、*National* に、事案に、事案に、事案に、事案に、事案に

事案、事案、事案、*offensive* に、事案に、事案に、事案に、事案に、事案に

事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案

事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案、事案

事案、*cold heart* の、事案に、事案に、事案に、事案に、事案に、事案に

外務省

左様 河内豊前共先利根にせよ通るの御事なすの事、十日の御こと御承知せし

御事言ふに人よりをいれ御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

と分るに人達は御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

之は御承知の御事

御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

は、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

此の御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事、御承知の御事

再又破字將會方也。

大東 御治と承る御事。協定を務むるに當り其礎を造り得るは
以て協定に於て自らの意見を述べ置かざる。自らの意見を述べ置かざる
は其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り
百十協定より協定を以て其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り
會事ある所を觀るに協定に於て其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り
限りなく其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り

十三年に於て其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り

大東 我々の協定は申上る通りである。之を中絶する事は協定及び協
定の信託に於ては許さざる。協定には強き信託ありし。是れ内なり
／＼の協定に於て其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り
内事 其の協定は協定が其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り
か其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り
大東 其の協定は協定が其の心を承るに當り之を以て其の心を承るに當り

修繕地は行はざる

大臣 今の事では秋の臨時多めに修繕地をわける事であるから

その旨は内閣に (昭和二十八年)

記すは 修繕地内に内すはに移す事

(以下別紙を参照) 大臣より被れ 井原 大臣の裁可は

上欄記載の通り)

大臣 以下十四人案が裁可であるから、口下には修繕地の中心地と定す

要あり

大臣 十四人案が速かに申すに押すはなす事から、事を通す

その旨を以て此の修繕地を裁可する事とし、且し若し大臣の裁可を

口下には裁可するに依りて修繕地を定す事

大臣 口下には裁可するに依りて修繕地の中心地を以て裁可し、今は

修繕地を以て裁可するに依りて修繕地の中心地を以て裁可する事

追加分屋文が来るに云ふ所は云々は控付の事と世にいひ
 あり。又ハケの立派な物は自らの物も一々納得る事と
 附するあり。惣運送のヤミ事にははらふ。日本側には
 カサニと云ふ所あり。勿論極張火は、森兼を運送する事
~~ハ~~ 石可配にはいひ、是し直等は二は、伝事等にははらふ
 何は云々事あり。之は云々の事あり。之は云々の事あり
 ニとあり。惣に別館を凡が伝言方針と筋をす。と云ふ事あり

平賀の事あり。平賀の事あり。平賀の事あり。平賀の事あり。

右使 自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らは使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

自らが使者に云ふ事、中三十五兵と云ふ事、平賀の事あり。

大臣 十四の条に於て教示の上より上達に付ては、この條に於ては、
 其の條に於ては、其の條に於ては、其の條に於ては、

その條に於ては、其の條に於ては、其の條に於ては、

其の條に於ては、其の條に於ては、其の條に於ては、

大使 この條に於ては、其の條に於ては、其の條に於ては、

其の條に於ては、其の條に於ては、其の條に於ては、

2

四月十日 大臣 逓用

行政協定内務省事務

協定の条項の規定

(イ) 内務省の軍隊構成員の意義は、
 別條の如き

合意條事條を考慮するに
 加はらば、

(ロ) 内務省一項の施設提供の規定は、
 其の條に於ては、

この條に於ては、
 其の條に於ては、

その條に於ては、
 其の條に於ては、

(イ) 協定の条項の規定は、
 其の條に於ては、
 (ロ) 協定の条項の規定は、
 其の條に於ては、

(ウ) 官制は、元々支那に在り、我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、

我方も努力して其協定の成立に努むるものなり
 式提議又は又(案)に於て之を認めざるものもなきこと
 から、我が案の概してドラミングに於ては、
 其協定の成立に努むるものなり
 我方は協定の成立に努むるものなり
 現行協定の施行と其協定の成立に努むるものなり
 我方は協定の成立に努むるものなり
 現行協定の施行と其協定の成立に努むるものなり
 我方は協定の成立に努むるものなり
 現行協定の施行と其協定の成立に努むるものなり
 我方は協定の成立に努むるものなり
 現行協定の施行と其協定の成立に努むるものなり

(ウ) 協定は、元々支那に在り、
 我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、

(ハ) 官制は、元々支那に在り、
 我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、

(ウ) 協定は、元々支那に在り、
 我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、

(ウ) 協定は、元々支那に在り、
 我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、
 (ハ) 官制は、元々支那に在り、
 我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、
 (ウ) 協定は、元々支那に在り、
 我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、
 (ハ) 官制は、元々支那に在り、
 我が國に在りては、
 内閣の組織は、日本側、
 支那の側は、半軍半政に
 あり、

(1) NAの...
 (2) ...
 (3) ...
 (4) ...

(1) 中二條为一項	は、向掛相違いあり得ることを、
(2) 中一項目は	別紙(イ)の二議事録を追加し、
考慮を要する。	議事は、向掛相違いあり得ることを、
取は現に実行されており、	此項は、之れと
思ひ入れ。	
(3) 中五項、	向掛相違いあり得ることを、
向掛相違いあり得ることを、	又、反その内、

外務省

(12) 御運言後、
 ...

(13) ...
 (14) ...
 (15) ...

(1) 御運言後、	別紙(イ)の二議事録を追加し、
(2) 中二條为一項	は、向掛相違いあり得ることを、
(3) 中一項目は	別紙(イ)の二議事録を追加し、
考慮を要する。	議事は、向掛相違いあり得ることを、
取は現に実行されており、	此項は、之れと
思ひ入れ。	
(4) 中五項、	向掛相違いあり得ることを、
向掛相違いあり得ることを、	又、反その内、

外務省

(7) 御体通ふに付様あり

尚書八品に附し朝服は
はこA.O.M.M.の字
に同様のものを贈
するにしようし。

(9) 名簿は日本銀行
が下関の支店及び
支店に備へてある
を以て各地方官
に送付せしむべき
なり。又日本銀行
は正取の支店に
おいたるものなり

以上同様のものを
送付するにしようし。
御体通ふに付様あり
尚書八品に附し朝服は
はこA.O.M.M.の字に同
様のものを贈するに
しようし。
(9) 名簿は日本銀行が
下関の支店及び支店に
備へてあるを以て各
地方官に送付せしむ
べきなり。又日本銀行
は正取の支店に
おいたるものなり

外務省

6

(12)

御体通ふに付様あり
尚書八品に附し朝服は
はこA.O.M.M.の字に同
様のものを贈するに
しようし。又日本銀行
は正取の支店に

以上同様のものを
送付するにしようし。
御体通ふに付様あり
尚書八品に附し朝服は
はこA.O.M.M.の字に同
様のものを贈するに
しようし。
(12) 御体通ふに付
様あり尚書八品に附し
朝服ははこA.O.M.M.
の字に同様のものを
贈するにしようし。又
日本銀行は正取の支
店に備へてあるを以
て各地方官に送付せ
しむべきなり。又日
本銀行は正取の支
店に

外務省

事務係を要し辨
原ふまゝに

四、現地協定書第三項は、我方に同じくは修路に
 ても同様に必要である。

三、附属合意議事録の取扱
 議事録は、此の現地議事録の内容を存置すること
 とし、本日は進捗を明らかに確定することとし、現地
 議事録中には不要となる部分並びに第三國人軍
 備糧扱番の如く存置困難のものがある。

外務省

早急研考致すし

早急お見舞すし

四、合同委員会決議事項の取扱
 抄本の非必要書類と認められ、文書として
 フォーメーションの取扱に支障を別添（別添一三）の
 通り。

外務省

別添
—

ARTICLE IV

The Parties will consult together regarding the implementation of this Treaty and whenever in the opinion of either of them the security of Japan or international peace in the Far East is threatened.

and security

別添
=

CONFIDENTIAL

ARTICLE

The term "Japan" as used in this Treaty means geographically the territories of Japan exclusive of those that are not under its administration.

別
附
三

Re Article I(a):

Members of the United States armed forces being required by Article IX paragraph 3(b) to carry travel order when entering into Japan, it is understood that those personnel on active duty belonging to the United States armed forces, whose entry into Japan is not under travel order, shall not be treated as "members of the United States armed forces" for the purpose of this Agreement.

別
附
四

ARTICLE II

1. The United States armed forces may use facilities and areas in Japan, inclusive of existing furnishings, equipment and fixtures necessary for the operation thereof, as may be agreed upon between the two Governments.

別添
付属
（
甲
十
日
（
（
）

Re. Conforming of Article II paragraph 1

1. While the Security Treaty grants the right to dispose United States armed forces in Japan, the United States, under the new Treaty, "is^s granted the use by its land, air and naval forces of facilities and areas in Japan" "for the purpose of contributing to the security of Japan and in consideration of the common concern that the two Parties have in the maintenance of international peace and security in the Far East." That is to say, Article II paragraph 1 cannot say that it grants that right since the new Treaty itself has granted that right for definite purposes. Article II paragraph 1 should therefore stipulate only that the United States may use the facilities and areas as may be agreed upon between the two Governments.

2. When the Administrative Agreement was written, a large number of facilities and areas were in actual use by the Occupation Forces. "Agreements as to specific facilities and areas, not already reached by the two Governments by the effective date of this Agreement" appearing in the second sentence of Article II paragraph 1 refer to those facilities and areas in use by the Occupation Forces not already agreed to be transferred to the Administrative Agreement basis. The reference to "not already reached by the two Governments by the effective date of this Agreement," therefore, is obsolete.

3. The facilities and areas currently used by the United States armed forces under the Administrative Agreement are transferred to the new basis by the new paragraph 2 of Article II in the Japanese working paper.

別添
付属
（
（
）

2. The facilities and areas, the use of which Japan has granted to the United States of America under Article II of the Administrative Agreement under Article III of the Security Treaty between Japan and the United States of America, signed at Tokyo on February 28, 1952, as amended, shall be considered as the facilities and areas agreed upon between the two Governments in accordance with the provisions of paragraph 1.

別
添
六

Re. Article III

Paragraph 1 sentence 1

The expression "rights, power and authority" seems to be repetitions, and it is difficult to explain what each of these three words mean. It is felt that "rights" alone can cover what is meant by "rights, power and authority. Similarly, the expression "establishment, use, operation, defense or control" may well be replaced by "operation and control." Simpler expressions are politically preferable.

Paragraph 1 sentences 2 and 3

Under Article II paragraph 1 the United States is provided with the necessary facilities and areas upon agreement with the Japanese Government. Within such facilities and areas the United States has necessary rights for their use under Article III paragraph 1 sentence 1.

Article III paragraph 1 sentences 2 and 3 stipulate that the United States has rights outside these facilities and areas to provide access thereto, which may be exercised without consulting with the Japanese Government except when the occasion requires.

It is logical that since the provision of the facilities and areas itself is subject to agreement, the exercise of rights pertaining to them outside the facilities and areas should also be subject to arrangement with the Japanese Government.

In actual practice the United States armed forces do not go out of the facilities and areas to exercise their rights, but the Japanese Government takes measures on their behalf. In this connection Article XXV paragraph 2(a) stipulates that the Japanese

Government furnishes the United States rights of way without cost to the United States. According to the languages of these two relevant Articles, the Japanese Government is responsible for paying for the actions of the United States armed forces of which it may not have any knowledge. It is logical that the Japanese Government bears the cost for such measures as are taken upon arrangement with the United States.

Paragraph 2 sentence 3

The transitional provision in the third sentence is obsolete.

137
B
JK
7

Re Article XI:

1. Re paragraph 2:

The United States Government undertakes to ensure that the quantity of goods imported under paragraph 2 of this Article for the use of the members of the United States armed forces and of the civilian component, and their dependents shall be limited to the extent reasonably required for such use, and to take all necessary measures to this end.

2. Re Paragraph 3(c):

The United States armed forces will take every possible measure to ensure that the duty-free importa-

137
B
JK
1

Re. Article XII, paragraph 1

The United States armed forces undertake to furnish the Japanese authorities with appropriate information, as far in advance as possible, on their procurement programs in Japan.

別
添
加

New paragraph to be inserted in Article XII after paragraph 5.

The Governments of Japan and the United States will cooperate with each other with a view to facilitating amicable settlement of claims of individual workers arising out of work with the United States armed forces or with the organizations provided for in Article XV in connection with the application of the preceding paragraph and paragraph 4 of Article XV.

別
添
加
0

Re. Article XIV

The United States has freedom in the choice of contractors to satisfy their military needs.

The intent of Article XIV which grants to certain American contractors privileges almost equal to those granted to the members or civilian component of the United States armed forces seems to be to treat them for military reasons as if they were a part of the United States armed forces, but not to grant them undue competitive advantages.

Now that a large number of American contractors are engaged in business in Japan on a competitive basis with Japanese contractors, it seems unfair if certain American contractors enjoy privileges for carrying out contracts which local Japanese or

別添
一

Re. Article XVIII paragraphs 1 and 2

The present provisions stipulate mutual waiver of claims as between the Japanese Government agencies and the United States armed forces. Now that Japan has the Self Defense Forces, it seems reasonable to stipulate such waiver as between the Self Defense Forces and the United States armed forces. Such revision will be well received by the public in Japan.

別添
一
二

With reference to the Agreement signed today, I have the honor to inform Your Excellency of the understanding of the Government of the United States that the Joint Committee to be established by Article XXVI thereof shall make a decision on the date of entry into force of the said Agreement whereby such procedures, interpretations, agreed views, arrangements and all other agreements as are recorded in the Minutes of the Joint Committee established by Article XXVI of the Administrative Agreement of February 28, 1952 and are applicable at the time of expiry of the Administrative Agreement will be made effective under the Agreement signed today with such modifications as may become necessary the entry into force of the Agreement.

I have further the honor to request Your Excellency to confirm the above understanding on behalf of the Government of Japan.

別添

CONFIDENTIAL

(1)

(Draft)

(Japanese Note)

I have the honour to refer to the Treaty of Mutual Cooperation and Security between Japan and the United States of America signed today, and to inform Your Excellency that the following is the understanding of the Government of Japan concerning the implementation of Article VI thereof:

Major changes in the disposition in Japan of United States armed forces, including those in their equipment, and the use of facilities and areas as the bases of military operations other than those conducted under Article V of the said Treaty shall be effected upon prior consultation with the Government of Japan.

I should be appreciative, if Your Excellency would confirm on behalf of your Government that this is also the understanding of the Government of the United States of America.

I avail myself

(2)

(U. S. Note)

I have the honor to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note of today's date, which reads as follows:

"(Japanese Note)"

I have further the honor to confirm on behalf of my Government that the foregoing is also the understanding of the Government of the United States of America.

Accept, Excellency,